十八史略

鶏口牛後　―訓読―

鶏口牛後

秦人諸侯を恐喝して、地を割かんことを求む。洛陽の人蘇秦なるもの有り。秦の恵王に遊説して用ゐられず。乃ち往きて燕の文侯に説き、趙と従親せしむ。燕之に資し、以て趙に至らしむ。粛侯に説きて曰はく、「諸侯の卒、秦に十倍す。力を并せて西に向かはば、秦必ず破れん。大王の為に計るに、六国従親して、以て秦を擯くるに若くは莫し。」と。粛侯乃ち之に資し、以て諸侯に約せしむ。蘇秦鄙諺を以て諸侯に説きて曰はく、「寧ろ鶏口と為るとも、牛後と為ること無かれ。」と。是に於いて六国従合す。